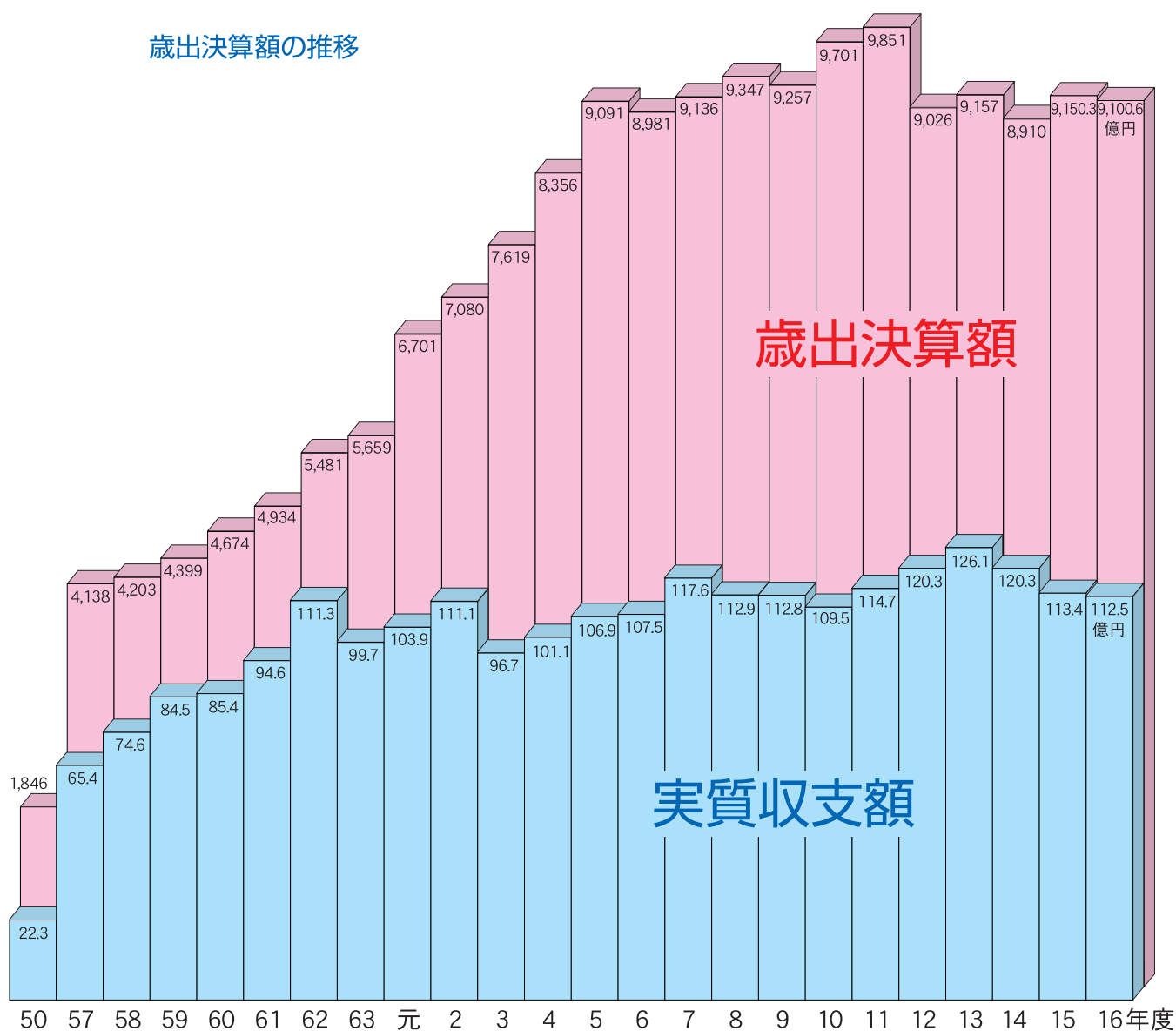


第1章 市町村財政の推移と現状分析

1、決算の状況

(1) 決算の概要

平成16年度の県内市町村の普通会計決算額は、歳入が9,293.7億円、歳出が9,100.6億円で、歳入から歳出を差し引いた額（形式収支）は193.1億円の黒字となりました。



用語解説

普通会計 市町村など地方公共団体の会計は一般会計と特別会計に区分経理されていますが、各団体の会計区分は一律ではないため、一般行政部門を普通会計として整理しています。この他の会計には、その収支を一般会計とは分けて経理する必要がある場合に設けられる会計で、各種の公営企業会計や介護保険事業会計、国民健康保険事業会計、老人保健医療事業会計などがあります。

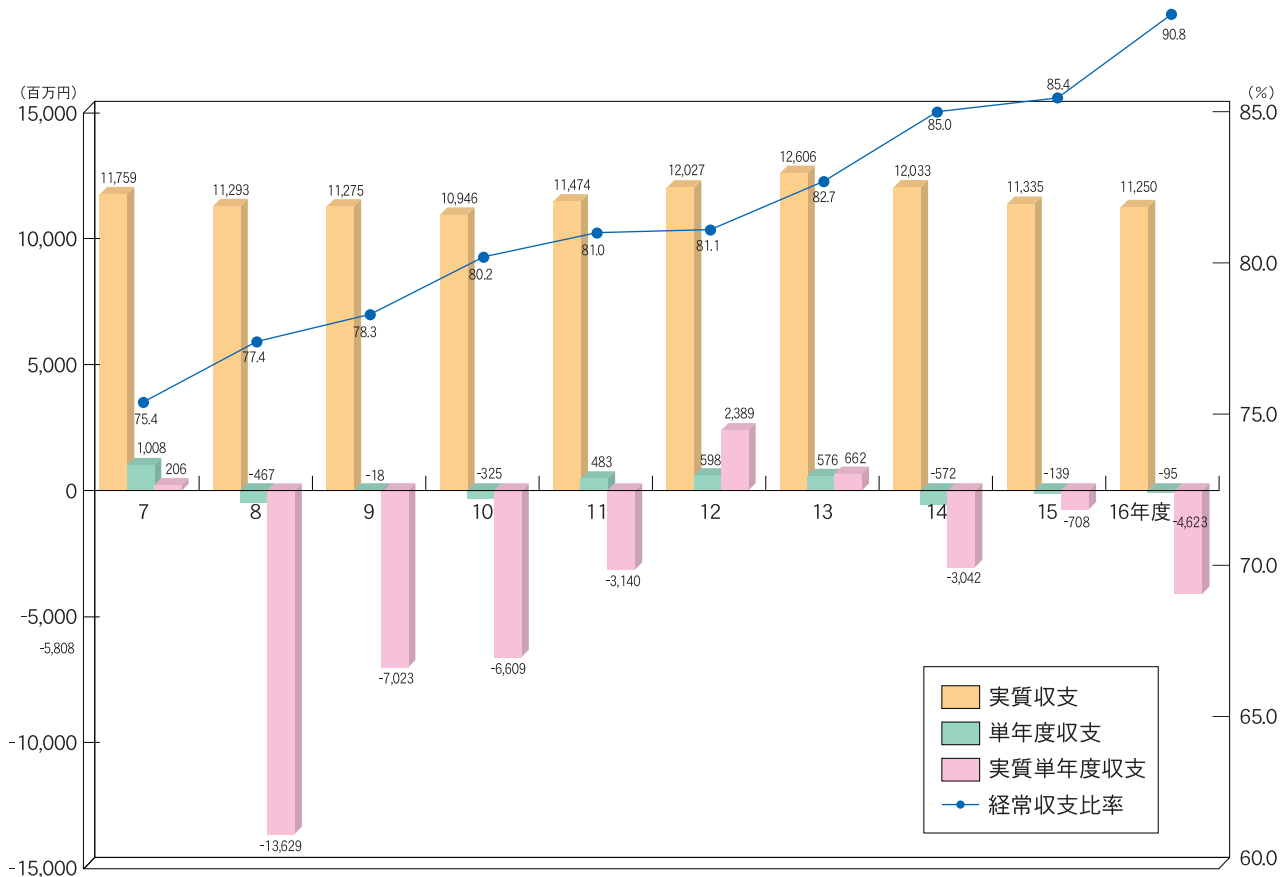
(2) 決算収支と経常収支比率

実質収支は全69市町村のうち、市町村合併により打ち切り決算となった6団体が赤字となりました。

単年度収支は平成14年度から3年連続の赤字となり、赤字の団体は前年度から7団体増加して42団体となりました。さらに、実質単年度収支も平成14年度から3年連続の赤字となり、赤字の団体は前年度から9団体増加し44団体となりました。

また、経常収支比率は前年度の85.4%から5.4ポイント上昇の90.8%で、平成3年度以降、14年連続の上昇となり、県全体の財政構造の硬直化が一層進んでいると言えます。

決算収支と経常収支比率の推移



用語解説

実質収支 その年度の決算で、収支が赤字か黒字かを見るための指標で、歳入と歳出の差引額から、翌年度に繰り越すべき財源（事業の繰越によって来年度に確保すべき財源など）を差し引いた額をいいます。

単年度収支 実質収支には、その年度以前から累積された赤字や黒字の要素が含まれています。したがって、その年度の収支の赤字・黒字を判別するためには、その年度の実質収支から、前年度の実質収支を差し引いた額を算出する必要があり、この数値を単年度収支といいます。

実質単年度収支 単年度収支には、長期的に見て、実質的な黒字要素・赤字要素となる支出・収入が含まれています。

例えば財政調整基金という基金への繰出しは将来の赤字に備えて積立を行うもので、その年度では支出となりますが、後年度で取り崩せば収入となります。また、地方債の繰上償還は償還を行うその年度において、単年度としては大きな支出となりますが、後々の地方債償還に係る利息を削減することができるなど、長期的には支出を削減する効果があります。これらの要素がなかったとした場合、その収支を見るための数値を実質単年度収支といいます。

実際の算定にあたっては、単年度収支に、財政調整基金への積立額及び地方債の繰上償還額を加え、財政調整基金の取崩し額を差し引いた額となります。

経常収支比率 裏表紙の「財政運営のチェックポイント」参照。